

平成31年度 函館あおい認定こども園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	6.5	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	6.9	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	6.3	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	6.3	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	6.7	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	7.4	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	6.2	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	7.9	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかなどを常に観察している。
	7.7	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	7.2	個々の幼児の発達の様子や課題について見通しをもって理解できる。
	7.5	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	8.7	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	7.2	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.2	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	7.5	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	6.8	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	8.8	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	6.9	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.7	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	7.9	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.8	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	7.2	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	7.6	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に関心をもちよく聞く。
研修と研究	7.2	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	6.8	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	6.0	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

～学級経営反省点～

【幼稚部】

- とよりのクラスとは、同じ学年同士としての意識を強く持ちながら過ごすことができていた。子どもたちはもちろんのこと、担任同士がしっかりとかわりを持つことで、クラスの枠を超えて遊ぶ姿も多く見られ、年長組らしい姿を見ることが出来た。（12年目保育教諭）
- 認定こども園になり、過ごす環境、活動、行事など、様々な場面で初めてのことが多く、自分自身の気持ちや準備不足から少々子どもたちの気持ちも落ち着かない様子があり反省した。（12年目保育教諭）
- 日々の保育の中で、少しの時間でできる遊びや活動、楽しく過ごせる時間をもう少し工夫しすすめることが出来るとよかったと思う。（4年目保育教諭）
- 活動と遊びの切り替えでは、注意を促す場面もあったが、一人ひとりの意識は少しずつ高まっていると感じる。今後は自分だけではなく、ひとつの仲間であるという事を一人ひとりがより感じ、意識することで助け合いの生まれるクラスにしていきたい。（2年目保育教諭）
- 生活を通して、全体的に「自分の思いを言葉で伝える力」がまだ未熟で幼いように感じている。どのように伝えたらいいのか分からなかったり、相手の思いをなかなか考えてあげられなかったりと、どうしても揉めやすかった。集団という中で育つ部分を大切にしながら、自分で考えながら思いの伝えあいができるような言葉がけをすすめていきたいと思う。（4年目保育教諭）
- みんなと同じペースで活動に参加することが難しい園児も数名おり、個別の言葉がけや、より話が分かりやすくなるような工夫、視覚で感じる楽しさを普段の保育ですすめていくことが難しかった。（2年目保育教諭）
- 気持ちと行動が正反対になってしまふ子どもたちもいて、気持ちを汲み取りながら信頼関係を築き、物事のよし悪しを伝えていく難しさを感じた。援助が必要な子には、わかりやすくその子に合った援助を探していきたい。（2年目保育教諭）
- とても元気なクラスで個別指導が必要な子が多く、その子どもたちに対する支援・援助が中心になりがちになり、園生活に慣れ落ちている子に対しての細やかな点での保育がしっかりと出来ていたかと振り返る。歌なども歌いたい気持ちがあったが、立ち歩く子も多くいる中だったので、動作をつけたりアカペラで歌ったりとその場に応じた方法ですすめていった。（15年目保育教諭）

- 初めての満 3 歳児のクラス作りでわかったことがたくさんあった。集中力の続く時間が短いことや、周囲の刺激に影響を受けやすいこともあり、設定保育というよりは、一人ひとりの欲求にあった活動ができる保育が必要だと思う。様々な状況を柔軟に受け止めることを大切にすすめていった。(31 年目教諭)
- 認定こども園になってスタートをしたが、その都度子どもたちに何を体験させたいのか、何を大切にしたいのか、保育者同士がもっと話し合う必要があったかもしれない。ただ、現状その時間を確保することも難しかったことも確かだった。保育を考えると、常に子どもが主体に考えていくことを、これからも大切にすすめていきたいと思う。(31 年目教諭)

【保育部】

- 新しく幼保連携型認定こども園になり、保育部がスタートし、様々な部分で自分自身不安が多い 1 年ではあった。しかし同じクラスの先生や部内での先生方との連絡は密にできる機会が今までより多く持てたので、すすめることができた。(20 年目保育教諭)
- 毎日長い時間の保育となるため、遊びの環境や製作など、日々の保育をどう充実させながら過ごすか、考える機会が多かったことで、自分なりに工夫しながら保育をすすめることが出来たように思う。(20 年目保育教諭)
- 年齢が低いと月齢の差がとても大きいことがわかった。特に生活面などでは個々の差が大きく、援助や配慮の工夫、そして健康面では細やかな検温や体調管理には特に気をつけていった。(15 年目保育教諭)
- はじめは一人遊びの子どもたちも、最近では友達の前を喜んで名前を呼んだり、かかわりが増えてきた。年齢的に物の貸し借りという事が難しく、トラブルにつながるが多かった。(1 年目保育教諭)
- 誰がクラスに入っても、個々の生活リズム等をわかりやすくする環境や工夫が必要だったと思う。(6 年目保育教諭)
- 使用したおもちゃの消毒の徹底、部屋の掃除と消毒の徹底に努めたい。(6 年目保育教諭)
- どの月齢の子どもも、しっかりと遊べる遊び、体を十分に使った遊びがワンパターンになりがちだったので、工夫していきたい。(6 年目保育教諭)

～今後取り組みたい課題～

- 園全体で行う行事・活動では、職員が意見交換等たくさん行い、思いをひとつにして準備などに取り組みたい。(12 年目保育教諭)
- 遊びの中の環境構成の工夫や、また同じ遊びの中でも異素材のものなどを取り入れて、遊びの幅に豊かさをもたせたい。(2 年目保育教諭)
- 「思いを伝え合う力」を伸ばせるような言葉かけや援助を引き続き大切にし、すすめていきたいと思う。(4 年目保育教諭)
- 協調性を大切にし、困ったときには助け合い譲り合うことを自らすすんでできるような援助をすすめていきたい。(4 年目保育教諭)
- 視覚での援助などを積極的に行いながら、一人ひとりに合った援助を心がけたい。(15 年目保育教諭)
- 月齢、発達に合った保育が出来るような学びを多く持ち、すすめていけるように努める。(20 年目保育教諭)
- 個々に合った保育や援助方法の工夫等、指導計画を十分に生かせるよう勉強していきたい。また、クラスだけではなく、保育部全体が円滑に、そして安全に保育ができるようなマニュアル作りや、行事に対しての資料を準備していきたい。(6 年目保育教諭)

～学校関係者からの評価～

- 認定こども園となって 1 年目ということもあり、あおいの雰囲気を保ちつつも、よい意味で園内にはピリッとした空気が流れていたように思います。園の自己評価に目を通して納得しています。これからも、あおいのカラーを保ちつつ、先生方が納得した保育がすすめられる園であり続けて欲しいと願っています。
- 保育の計画性の評定が他の項目に比べて低いのは、こども園になったばかりで、先生方もまだ手探りの部分があるからでしょうか。年長に関して言えば、園外への行き先が同じところが多かったような印象でした。「あおいらしさ」をなくさずに、明るく元気なこども園として、これからも応援しています。
- 先生方の真剣な取り組みや考え方があるからこそ、あおい認定こども園が信頼される園であるのだと評価をみて思いました。
- いつも一生懸命な先生方・職員の皆さんに本当に感謝しています。あおいに入園させて、いつもよかったと思っています。仕事もたくさんある中で、職員の皆さんが一つになり、保育をすすめてくださるのが伝わってきます。そして、いつも「子どもの目線」で保育を考えてくださることが、あおい認定こども園の魅力だと思っています。
- 先生方の安全面の考え方・チーム意識の高さが見ていて伺えました。いつも子供に真摯に向かう姿は、保護者としても好意的でした。各学級、担任の先生のカラーが見られ、園全体の活動（お遊戯会や秋祭りなど）では、一体感も見ることができ、年間を通して色とりどりの保育に力を注いでくれるところが、あおい認定こども園の大きな魅力だと感じています。
- クラスの状況として、手紙（またはアプリ配信）をもう少し増やしてもらえたら内容がわかると感じました。
- 外遊び・水遊びが少ないように思いました。
- 行事の内容等のお手紙が遅い時もありました。アプリ配信だけでなく、プリントで連絡してほしい事柄もありました。